

第3回 特別研修会

インプラント前処置としての骨再生医療の現状と未来

日時：令和3年12月4日(土)
場所：フクラシア丸の内オアゾ、Web 併催
講師：丸川 恵理子先生



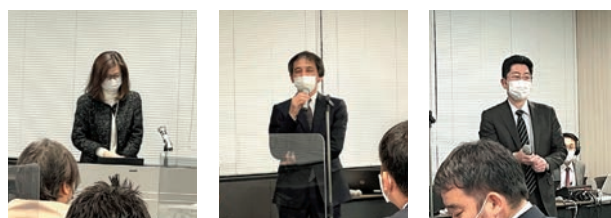
菅野 岳志(千葉県)



12月4日(土)、第3回特別研修会がフクラシア丸の内オアゾで、参集とWebライブ配信のハイブリット開催で行われました。

今回は、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔再生再建学分野教授の丸川 恵理子先生をお招きし、「インプラント前処置としての骨再生医療の現状と未来」の演題で講演していただきました。教授に就任されてまだ3か月とお忙しい中、丸川先生が携わってきた骨再生の研究や歯の移植、インプラント治療での骨造成について臨床症例を交えながら説明していただきました。

骨再生の分野での成長因子(BMPなど)、人工骨の β -TCPのオスフェリオン、ハイドロキシアパタイト・コラーゲン複合体のリフィット、自己フィブリノゲンゲル(PRP,PPP、PRFなど)や幹細胞を用いた再生医療などについて研究、開発に携わり、新たな可能性を持つものや、開発、実験、治験や臨床応用に向けての困難なところを講演していただきました。また、会場からも多数の質問があり、現在使用できる再生療法の方法について、これから使用できるかもしれない材料についての応用の方法、可能性など、本当に活発なディスカッションが行われ、インプラント治療を行う前処置の骨造成について非



常に高い関心があり、とても有意義な素晴らしい講演でした。

インプラント治療を行う上で骨造成が必要な場面は多く存在し、自家骨、異種骨、他家骨や人工骨が使われ、当会でも様々な工夫やアイデアを研究し臨床応用している先生が多く在籍しています。インプラント治療を確実にを行うための骨、軟組織などの前処置についても知識、技術を様々な分野のスペシャリストの先生がたにご指導ご鞭撻をいただき、たくさん学んでいきたいと思いました。